

民間医療機関の「2025年における対応方針」に係る説明資料について

<u>グループ4</u>	<u>鳴門市・板野郡の医療機関</u>	ページ番号
①	兼松病院	2
②	岩朝病院	3
③	鳴門山上病院	4
④	小川病院	5
⑤	芳川病院	6
⑥	浦田病院	7
⑦	きたしま田岡病院	8
⑧	吉野川病院	9
⑨	浜病院	10
⑩	稲次病院	11
⑪	井上病院	12
⑫	勝良医院	13
⑬	板東診療所	14
⑭	原田内科	15
⑮	橋本医院	16
⑯	元木医院	17
⑰	斎藤整形外科	18
⑱	春藤内科胃腸科	19
⑲	清水内科	20
⑳	山田眼科藍住	21
㉑	森本医院	22
㉒	中山産婦人科・小児科	23
㉓	矢野医院	24

病院の機能・役割と今後について

病院名	医療法人 愛生会 兼松病院			
所在地	徳島県鳴門市撫養町斎田字大堤54			
開設者	兼松 晴彦			
許可病床数(床)	一般	医療療養	介護療養	合計
	40	46		86
(うち非稼働病床)	(0)	(0)	()	(0)
主な診療科目	1	2	3	4
	内科	外科	眼科	整形外科
病床機能(床)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
現状		40	46	
2025年		40	46	
主な病院機能				
がん	化学療法、リハビリテーション、終末期医療			
脳卒中	回復期リハビリテーション → 維持期リハビリテーション(訪問、通所)			
整形疾患	回復期リハビリテーション → 維持期リハビリテーション(訪問、通所)			
糖尿病	教育入院、指導			
精神疾患	脳神経外科(毎週木曜日のみ)			
救急	2次救急、救急輪番制			
在宅	訪問診療、訪問看護・指導、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション			
自施設の現状	<ul style="list-style-type: none"> ○2次救急(救急輪番制)を担い、救急患者の受入を行っている。 ○他医療機関で急性期治療を終了後の回復期リハビリテーションを積極的に行っている。 ○乳腺・甲状腺の専門診療 ○在宅医療・介護サービス及び同法人内のサ高住・デイサービスも活用し、退院後の医療から介護・福祉へのスムーズな移行 ○健診・人間ドックで予防医療 			
自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○地域での役割分担 近隣の医療・介護・福祉機関や医師会等との連携を強化し、地域に根ざした包括的なサービスを提供する 			
地域において今後担う役割	<ul style="list-style-type: none"> ○回復期リハビリテーションの推進 ○回復期(当院)から維持期(近隣医療機関・介護施設・在宅)への橋渡し ○かかりつけ医として、外来・入院～在宅まで切れ目のない医療を提供 ○高度急性期医療は必要ないが、入院医療を必要とする患者様の受け入れ ○地域での乳癌の啓蒙・乳癌診療の支援 			
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ○人口(特に労働人口・現役世代)の減少、少子超高齢化社会での医療を支えるために、共同利用も含めた医療資源の効率的利用、人材の支援的な活用等、医療・介護・福祉・保健の枠を越えて、地域全体で安心・安全に暮らせる環境づくりの一翼を担う。 			

病院の機能・役割と今後について

病院名	医療法人うずしお会 岩朝病院			
所在地	徳島県鳴門市撫養町立岩字元地280			
開設者	岩朝 昭			
許可病床数(床) (うち非稼働病床)	一般	医療療養	介護療養	合計
	()	44 ()	()	44 ()
主な診療科目	1	2	3	4
	内科	外科	泌尿器科	リハビリテーション科
病床機能(床) 現状 2025年	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
			34	44 44
主な病院機能	人工透析 内科 外科 糖尿病 整形外科 リハビリテーション科			
自施設の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養中の方や地域で医療(介護)が必要となった方に対し、外来から入院までスムーズに連携できるよう体制整備を図っている。 ・特に入院が必要な透析患者様の受け入れや送迎などにも対応している。 			
自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域療養を支える役割を担うとともに、鳴門市や東部医療圏での地域生活ケアシステムの実現に向け体制を強化する必要がある。 ・老朽化に伴うハード面の整備 			
地域において今後担う役割	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療を強化し、医療・介護・福祉を包括的に担っていく。 ・新興・再興感染医療分野への更なる取組。 			
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・岩朝病院の病院新築移転に伴い、杏和医院19床内18床、稲山外科内科17床内16床を病床移動し、34床を東部医療圏で不足している回復期病床への転換を図り、地域医療ニーズの変化に対応することで、鳴門地域での地域包括ケアシステムに貢献する。2025年予定。 ・また、新たに設置される「新興感染症等の感染拡大時における医療」を提供できる体制を整備する。 			

病院の機能・役割と今後について

病院名	医療法人久仁会 鳴門山上病院			
所在地	徳島県鳴門市鳴門町土佐泊浦字高砂205番地29			
開設者	理事長 山上敦子			
許可病床数(床)	一般	医療療養	介護療養	合計
		90		90
(うち非稼働病床)	()	()	()	0
主な診療科目	1	2	3	4
	内科・外科	脳神経内科・脳神経外科	リハビリテーション科	泌尿器科
現状	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
2025年				90
				90
主な病院機能	保健医療計画において			
脳卒中	維持期を担う病院			
精神疾患	高次脳機能 認知症 てんかん 統合失調症 うつ			
在宅	在宅療養支援病院			
自施設の現状	急性期入院・回復期入院後の継続療養の提供(中心静脈栄養、酸素療法、人工呼吸器、気管切開、褥瘡、麻薬管理、神経難病、リハビリ等)、在宅復帰支援 介護施設や在宅で介護中の高齢者等の肺炎、尿路感染症、食欲低下、脱水などに対する治療(入院・外来)			
自施設の課題	訪問診療等在宅医療の強化			
地域において今後担う役割	法人内サービスはもとより、地域の医療介護福祉サービスと連携しながら、地域包括ケアシステムにおいて急性期後から看取りまでの地域の慢性期医療・介護・福祉を担う。 訪問看護、訪問リハに加え、訪問診療も実施し、急変時の入院対応も含め幅広く在宅療養を支援する。			
今後の展望	平成30年、令和2年に介護療養・医療療養から介護医療院への転換を実施。 脳神経外科に加え、令和4年7月から脳神経内科も開設し、脳卒中や認知症などへの対応を更に強化。			

病院の機能・役割と今後について

病院名	小川病院			
所在地	徳島県鳴門市撫養町斎田字北浜99番地			
開設者	医療法人緑会 理事長 小川 哲也			
許可病床数(床) (うち非稼働病床)	一般	医療療養	介護療養	合計
	48	57		105
主な診療科目	1	2	3	4
	内科			
病床機能(床) 現状 2025年	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
			48	57
			48	57
主な病院機能				
	がん(消化器、呼吸器)			
	脳卒中(亜急性期～回復期、慢性)			
	糖尿病			
	神経内科疾患、認知症			
	在宅:在宅療養支援病院			
	救急:救急告示病院			
自施設の現状	<p>○看護師や医師不足のため、救急要請をあまり受けることができず残念に思います。</p> <p>○救急不搬送事例のうち、異状死体の死体検案についてはほぼ全例応じて、死後CT検査も実施しております。(鳴門警察署管内)</p> <p>○関連施設(老人保健施設、特別養護老人ホーム、ケアハウス)入所者や、訪問診療の在宅患者等の急患については、ほとんど受け入れております。</p>			
自施設の課題	<p>○医師や看護師の充足を図り、軽症の救急対応機能の役割を担えるよう改善を目指す。</p> <p>○医療・福祉・介護・予防。生活支援を一体的に提供する地域包括システムの実現に向け体制を一層強化する。</p> <p>○鳴門市医師会との連携をより一層強化し、近隣医療機関との役割分担を担う。</p> <p>○関連施設入所者の急患への対応を一層強化し、基幹病院の負担軽減に貢献する。</p>			
地域において今後担う役割	<p>○医療・福祉・介護・予防・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築に向け、当院も積極的に地域医療介護連携の推進に取り組み、当院関連以外の介護・福祉施設等とも連携を図る。</p> <p>○在宅診療を行っている他の医療機関とも連携し、訪問リハビリテーションや急性増悪期の入院やレスパイト入院などで支援する。</p>			
今後の展望	<p>○令和5年8月を目標に地域包括ケア病床を現在の17床から23床に増床し、地域医療ニーズの変化に対応する。</p> <p>○医師や看護師の増員を図り、急患受け入れ能力を改善する。</p>			

病院の機能・役割と今後について

病院名	芳川病院			
所在地	徳島県板野郡松茂町中喜来字群恵278番地8			
開設者	芳川 博哉			
許可病床数(床) (うち非稼働病床)	一般	医療療養	介護療養	合計
	()	40 ()	0 ()	40 ()
主な診療科目	1	2	3	4
	内科	リハビリテーション科	整形外科	
病床機能(床) 現状 2025年	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
				40 40
主な病院機能				
在宅	在宅療養支援病院、訪問診療			
予防活動	地域企業の健康診断受入れ、各種ワクチン接種実施			
救急	かかりつけ患者を可能な限り診療			
自施設の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の福祉施設、在宅療養中の高齢者等が必要に応じてスムーズに入院ができるように体制整備を図っている。 ・急性期病院へ当院から紹介した患者の療養の受け入れができるように調整を行っている。 			
自施設の課題	地域医療を支えるために医療、福祉、介護、予防、障害系が一体となった地域包括ケアシステムの実現にむけて体制強化が必要。			
地域において今後担う役割	・これまでと同様に、地域の福祉施設との連携、在宅医療の強化を行う。			
今後の展望	同上			

病院の機能・役割と今後について

病院名	浦田病院			
所在地	徳島県板野郡松茂町広島字南ハリ13			
開設者	浦田 隆弘			
許可病床数(床)	一般	医療療養	介護療養	合計
	23	38	39	100
(うち非稼働病床)	()	()	()	()
主な診療科目	1	2	3	4
	消化器内科	循環器内科	外科	
病床機能(床)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
	現状	23		77
2025年	23			57
主な病院機能				
がん				
脳卒中				
心血管疾患				
糖尿病				
救急	救急告示病院 救急輪番病院			
自施設の現状	地域に密着した、医療の提供、在宅患者の急変に対応。 急性期と在宅の橋渡し機能を備える。			
自施設の課題	急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる、医療機関の整備に向けて当院の役割の再検討が必要。			
地域において今後担う役割	地域密着促進、高齢者等幅広いニーズへの対応、予防検診の強化に取り組み、介護、福祉施設等とも連携を図る。			
今後の展望	令和6年から、介護療養型医療施設のうち20床を介護医療院に転換し、残りの19床を医療療養病床に転換する。			

病院の機能・役割と今後について

病院名	医療法人きたじま倚山会 きたじま田岡病院			
所在地	〒771-0204 徳島県板野郡北島町鯛浜字川久保30番地1			
開設者	理事長 宮本 貴由			
許可病床数(床) (うち非稼働病床)	一般	医療療養	介護療養	合計
	146	52		198
	()	()	()	()
主な診療科目	1	2	3	4
	内科	脳神経外科	外科	整形外科
病床機能(床) 現状 2025年	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
		46	52	100
		46	135	17
主な病院機能				
救急	二次救急指定病院			
脳卒中	急性期、回復期、維持期を担う病院			
心血管疾患	急性期、回復期、維持期を担う病院			
整形外科疾患	急性期、回復期、維持期を担う病院			
がん	回復期、維持期を担う病院			
糖尿病	急性期、回復期、維持期を担う病院			
在宅	在宅療養支援病院(R5.4月より)			
自施設の現状	<p>○救急患者受入を始め、急性期から維持期・在宅までを担う病院として医療を提供</p> <p>○地域医療、関連施設等との連携強化を推進しながら、入退院支援がスムーズにできるように体制を整備している</p>			
自施設の課題	<p>○救急医療の機能を含め、地域医療を支える役割を担うとともに、医療・福祉・介護・予防・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの実現に向け体制を強化する。</p> <p>○地区医師会等との連携をより一層強化し、地域の病院、診療所との役割分担を担う。</p>			
地域において今後担う役割	<p>○医療・福祉・介護・予防・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築に向け、当院が率先して地域医療連携の推進に取り組み、介護施設等とも連携を図る。</p>			
今後の展望	<p>○急性期から在宅まで医療・介護提供の推進（地域密着促進、在宅支援機能の強化）</p>			

病院の機能・役割と今後について

病院名	医療法人 修誠会 吉野川病院			
所在地	板野郡北島町高房字八丁野西36-13			
開設者	理事長 永廣 信治			
許可病床数(床)	一般	医療療養	介護療養	合計
		115		115
(うち非稼働病床)	()	0	()	0
主な診療科目	1	2	3	4
	内科	脳神経外科	整形外科	循環器内科
病床機能(床)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
現状			58	57
2025年			58	57
主な病院機能				
脳卒中	回復期、慢性期入院および外来での診断、治療、再発予防、リハビリテーションを担う			
心血管疾患	回復期、慢性期入院および外来での診断、治療、再発予防、リハビリテーションを担う			
糖尿病	回復期、慢性期入院および外来での専門的診断と治療、教育などを担う病院			
精神疾患	入院および外来で認知症と高次脳機能障害、てんかん等の診断と治療、ケア、支援を担う			
がん	がんや脳腫瘍の回復期、慢性期、終末期を担う病院			
小児	外来での診断、治療、検診などを担う病院			
救急	かかりつけ患者の急性増悪には時間内での救急対応も可能			
在宅	訪問診療、がん患者対応			
自施設の現状	病床の約半数を回復期リハビリテーション病床とし、脳卒中や脳外傷、脳腫瘍などの脳疾患、脊椎や大腿骨骨折など運動器疾患、肺炎後などの廃用症候群のリハビリテーションを行っているが、今後は心血管疾患に対するリハビリテーションも対応予定である。慢性期病床では、かかりつけ患者の急性増悪の治療や終末期の看取りもを行っている。特殊な脳障害や高次脳機能障害に関しては近隣だけでなく、徳島県下の広い範囲から紹介があり、治療と相談、支援を行っている。			
自施設の課題	回復期の患者数増加に伴い、リハや看護・介護・医療スタッフ、事務職員の人員増を図り、チーム医療を強化する必要がある。回復期リハ病床はスタートからまだ数年なので、県内の各医療機関への周知、連携強化をさらに推進する必要がある。回復期リハを終えた後も重度の障害を有する患者の連携先の確保が難しい。病院から自宅や施設に退院した患者の急変や再発に適切に対応するため、一部は急性期の対応も行っている。			
地域において今後担う役割	脳卒中循環器病対策基本法の制定により、徳島県でも脳卒中や心血管疾患の治療やリハビリテーション、発症予防に精力的に取り組む必要がある。当院は脳卒中や心血管疾患の機能回復に向けた先端的リハビリテーションや診断・治療機器の導入により、超急性期を除く回復期や慢性期、一部急性期での医療を担う予定である。特に障害を有する住民の生活機能改善と自立支援には大きく貢献できると考えている。また認知症の発症予防やリハビリテーションに関しても積極的に地域に貢献したい。			
今後の展望	徳島県は日本の多くの地域と同様に、さらに少子高齢化社会へと進んでいく。高齢者は認知症や脳卒中、心血管疾患、糖尿病、運動器疾患などで大きく生活機能が低下する。現代は人生100年時代でもあり、高齢者が尊厳と幸福感を持って最後まで命を全うする社会が望ましい。そのためには上記疾患の発症予防や発症した場合の急性期治療や回復期のリハビリテーションなどによって機能を回復させることが重要である。当院は回復期と慢性期、維持期を中心に早期からリハビリテーションや適切な治療、その後の支援・相談を専門的かつ適切に行うことで、今後も地域や徳島県の医療、健康に貢献できると考えている。			

病院の機能・役割と今後について

病院名	浜病院			
所在地	徳島県板野郡藍住町矢上字北分95番地			
開設者	医療法人藍生会 理事長 武久洋三			
許可病床数(床)	一般	医療療養	介護療養	合計
		40		40
(うち非稼働病床)	()	()	()	()
主な診療科目	1	2	3	4
	内科			
病床機能(床)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
現状				40
2025年				40
主な病院機能				
がん	維持期を担う病院			
脳卒中	維持期を担う病院			
心血管疾患	維持期を担う病院			
糖尿病	維持期を担う病院			
在宅	維持期を担う病院			
自施設の現状	急性期機能を担う病院から、継続して治療が必要な患者さん及び病気にて麻痺等々の障がいがあり自宅での生活が困難な患者さんへの医療を提供。また、在宅療養中の患者さんが体調に変化があった場合に、当院での治療および救急病院への搬送の判断等々の体制整備を図っている。			
自施設の課題	在宅系への医療提供の強化、及びリハビリテーション実施を強化する。また、地域の病院及び診療所との連携を強化する。			
地域において今後担う役割	地域包括ケアシステムの構築に向け、慢性期病院としての役割を果たし、またリハビリテーションを強化することにより一人でも多くの患者さんが在宅へ復帰できる病院構築を図る。			
今後の展望	藍住町は医療療養病床が少なく、引き続き医療療養病床として、地域医療を支えていきます。			

病院の機能・役割と今後について

病院名	稲次病院			
所在地	徳島県板野郡藍住町笠木字西野50-1			
開設者	社会医療法人凌雲会 理事長 稲次正敬			
許可病床数(床)	一般	医療療養	介護療養	合計
	26	41	0	67
(うち非稼働病床)	(0)	(0)	(0)	(0)
主な診療科目	1	2	3	4
	リハビリテーション科	内科	整形外科	形成外科
病床機能(床)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
	現状	26	41	
	2025年	26	41	
主な病院機能				
がん				
脳卒中	回復期を担う病院			
心血管疾患	維持期を担う病院			
糖尿病	維持期を担う病院			
精神疾患				
救急	救急告示病院, 救急輪番病院			
小児				
周産期				
災害				
へき地	へき地診療所(3か所)への医師派遣			
在宅				
自施設の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・入院では回復期リハ病棟を中心として積極的な早期転院の受け入れ。 ・自宅での療養生活を支援するために訪問診療、地ケア病床を活用し機能分化に対応。 ・新型コロナ患者の受入れや解除後の継続入院、救急告示病院として当該地域の救急医療を担う。 ・へき地診療所(3か所)への医師派遣。 			
自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の医療機関及び介護施設と協力して、在宅医療や居宅介護サービス等との連携を一層強化し、患者様の状態に適した医療を提供し在宅療養生活等を支える。 			
地域において今後担う役割	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の2次救急医療機関としての医療機能の維持。 ・リハビリ病院として地域包括ケアシステム構築の為の連携を図る。 ・率先して地域の介護・福祉施設等への支援体制を強化する。 			
今後の展望				

病院の機能・役割と今後について

病院名	井上病院			
所在地	徳島県板野郡板野町犬伏字鶴畑39番地1			
開設者	医療法人十全会 理事長 井上篤			
許可病床数(床)	一般	医療療養	介護療養	合計
		60		60
(うち非稼働病床)	()	0	()	()
主な診療科目	1	2	3	4
	内科	リハビリテーション科	整形外科	皮膚科
病床機能(床)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
現状				60
2025年				60
主な病院機能				
癌	主として緩和ケア・慢性期の症状に対して対症療法を担う病院			
脳卒中	主として慢性期の状態の運動器・脳血管リハビリを担う病院			
心血管疾患	主として慢性期(高次医療機関での加療を終えた)の継続治療を担う病院			
糖尿病	主として慢性期(高次医療機関での加療を終えた)の継続治療を担う病院			
精神疾患	主として認知症(高次医療機関での加療を終えた)の継続治療を担う病院			
救急				
小児	非対応			
周産期	非対応			
災害	板野町の指定避難場所となっている			
へき地				
在宅				
自施設の現状	<ul style="list-style-type: none"> ●在宅療養中(主として板野町・上板町)の高齢者が体調を崩した時に、必要に応じてスムーズに入院ができるよう体制整備を図っている。 ●入院は転院が主となっており、高次医療機関からの転院が9割以上を占める。外来患者の急変などの受け入れが満床のためできず、高次医療機関に依頼するケースが多いが、軽症な場合は加療に苦渋している。 			
自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●板野郡医師会などの連携をより一層強化し、地域の診療所との役割分担を担う。 ●主として訪問診療よりは病床を担っている病院という位置づけのため、バックボーンとしての役割を行いたいが、現在も訪問診療を依頼されるケースが多く、訪問診療時に医師が0人になってしまう時間などは加療に苦渋している。 			
地域において今後担う役割	<ul style="list-style-type: none"> ●高次医療機関からの受け入れ病院・板野町の診療所のバックボーンとしての位置づけを徹底したい。 ●地域医療連携の推進に取り組み、介護・福祉施設などとも連携を図る。 			
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ●医療療養病床の維持 ●高次医療機関からの受け入れを引き続き積極的に行う。 			

病院の機能・役割と今後について

病院名	(医)貴和会 勝良医院			
所在地	鳴門市撫養町齊田字西苑77-10			
開設者	勝良 洋			
許可病床数(床) (うち非稼働病床)	一般	医療療養	介護療養	合計
	19			19
	()	()	()	()
主な診療科目	1	2	3	4
	内科	消化器科	循環器科	呼吸器科
病床機能(床) 現状 2025年	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
		8		11
		5	7	7
主な病院機能	糖尿病 高血圧 消化器疾患 心血管疾患 小児疾患 等の急性期から維持期を担う診療所			
自施設の現状	外来診療がメインの有床診療所			
自施設の課題	コロナ以降、入院病床の空床が目立つ			
地域において今後担う役割	地域住民の乳幼児～老人のかかりつけ医			
今後の展望	病床は縮小し外来機能強化(縮小時期は未定)			

病院の機能・役割と今後について

病院名	医療法人真誠会 原田内科			
所在地	徳島県鳴門市大津町矢倉字六ノ越5-9			
開設者	原田 秀夫			
許可病床数(床)	一般	医療療養	介護療養	合計
	12	7		19
(うち非稼働病床)	()	()	()	()
主な診療科目	1	2	3	4
	内科			
病床機能(床)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
現状		12		7
2025年		7	5	7
主な病院機能				
がん				
脳卒中				
心血管疾患				
糖尿病				
精神疾患				
在宅				
小児				
自施設の現状	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院からの早期退院患者の在宅・介護施設への円滑に引き継ぐ医療・リハビリ機能 2. 慢性疾患急変時に対応し、転院紹介必要かトリアージする医療機能 3. 専門医療の一翼を担い、病院の役割を補完する機能 4. 在宅医療を担う機能 5. 終末期医療を担う機能 6. 新型コロナ発熱外来に加えて、新型コロナ急性期病棟の後方支援機能 			
自施設の課題	医療ニーズが残存する退院患者の安心できる退院先の確保 働き方改革に伴う医師・看護職マンパワー不足の可能性			
地域において今後担う役割	地域包括システムにおいて医療・介護・福祉保健を複合的に提供するサテライト的なハブ機能			
今後の展望	地域包括システムにおけるサテライト的なハブとしての役割メニューをより一層充実する (急性期医療機関は元より周辺介護施設や居宅介護支援事業所との連携強化)			

病院の機能・役割と今後について

病院名	医療法人 橋本医院			
所在地	徳島県鳴門市大津町吉永字四番越471-6			
開設者	橋本 公昭			
許可病床数(床)	一般	医療療養	介護療養	合計
	13			13
(うち非稼働病床)	(0)	()	()	()
主な診療科目	1	2	3	4
	内科	外科	リハビリテーション	
病床機能(床)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
	現状	2	2	9
	2025年	2	2	9
主な病院機能				
外傷	脊椎圧迫などの骨折			
悪性腫瘍	基幹病院からの紹介、転入院			
内科疾患	肺炎等の軽中等症や基幹病院からの回復期			
在宅	介護施設や訪問診療患者の支援病床機能			
自施設の現状	重篤あるいは専門対応を必要としない軽症ないし中等症の一般内科疾患で入院加療を必要、希望される患者への対応 基幹病院からの紹介や転入院(主に回復期にある患者) 介護施設や訪問診療患者が体調を崩し入院を必要とした時の支援病床 介護医療院6床が併設されている			
自施設の課題	現在の有床診療所機能を維持、継続			
地域において今後担う役割	医療環境が今後どうなるかは予測不明だが、現状のままであれば、今の地域医療への役割を継続、維持する			
今後の展望				

病院の機能・役割と今後について

病院名	元木医院			
所在地	徳島県生鳴門市撫養町南浜字東浜592			
開設者	元木健二			
許可病床数(床)	一般	医療療養	介護療養	合計
	19			19
(うち非稼働病床)	19	()	()	19
主な診療科目	1	2	3	4
	内科	小児科		
病床機能(床)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
現状	休床中	休床中	休床中	休床中
2025年	休床中	休床中	休床中	休床中
主な病院機能				
内科	基幹病院に入院するほどの重症ではないが、肺炎、気管支炎、腹痛嘔吐の持続や脱水症状、また高齢者の体調不良での衰弱、一人または高齢夫婦世帯のため自宅で十分な療養や介護ができない場合や要介護者の状態の急な悪化に対する入院治療			
糖尿病	インシュリン使用開始、コントロール不良、低血糖発作			
救急	救急輪番診療所			
小児	高熱の持続や嘔吐下痢による脱水等で持続点滴が必要な場合			
自施設の現状	現在休床中			
自施設の課題	休床中までは医師2名で上述の病院機能の内容以外に、平日21:00、休日9:00、17:00に1時間程主にかかりつけの方とそれ以外の方も対応してきましたが、医師1名が高齢の為時間外の外来や病棟処置ができなくなり、1人では十分な対応ができない為休床に至りました。 今後医師2名になれば再開予定ですが看護師等マンパワーの問題は考えられません。			
地域において今後担う役割	当院が入院開始したころは現在のような小児休日救急体制が十分でなく、鳴門市で小児の入院対応は当院と鳴門病院の2施設のみでしたし、当時は土日は鳴門病院も小児の対応ができにくく、また土曜日午後は休診の開業医が多く、当院は診療していたため悪化し短期入院適応の初診児も多くおりこれに対応していました。現在も同様の要望はあり(ご両親が他にも子供がいるため等で近い市内での入院希望)、病床再開時には上記の病状や、上述の主な病院機能の内科等の状態にも対応できるようシステムを構築し、小児や高齢者、要介護者のニーズにも対応できるよう図ります。			
今後の展望	現在長男が兵庫県の大学病院に勤務中で、将来帰って来た場合上述の役割を担う為病床再開に向かう予定です。			

有床診療所の機能・役割と今後について

病院名	齋藤整形外科			
所在地	徳島県鳴門市撫養町小桑島字前浜217			
開設者	齋藤 義郎			
許可病床数(床)	一般	医療療養	介護療養	合計
	19			19
(うち非稼働病床)	()	()	()	()
主な診療科目	1	2	3	4
	整形外科	リハビリテーション科	リウマチ科	
病床機能(床)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
現状 2025年		19	15	
主な病院機能				
救急	在宅当番制医、腰椎圧迫骨折、四肢骨折等の緊急時に対する機能			
後方支援	基幹病院等からの早期退院患者を受け入れ、在宅・介護施設への受け渡し機能			
専門医療	側弯症、先股脱、腰部脊柱管狭窄症、変形性膝関節症等専門医療を担って病院の役割を補完する機能			
通所リハビリテーション	医療と介護を一体的に提供する機能			
在宅医療	他科診療所と面としての在宅医療の拠点としての機能			
自施設の現状	救急指定医療機関ではないが、救急車による四肢骨折、脊椎圧迫骨折、急性腰痛、急性関節痛等急性患者の受け入れている。 専門家医療だけでなく他科(内科等)診療所通院中の在宅患者が体調を崩した時、内科医と共診で入院医療施行している。 新型コロナウイルス感染症に対し、予防注射、発熱外来への参加。ホテル療養者への支援。			
自施設の課題	救急医療の充実、在宅医療への訪問診療等への積極的参入。 病診連携、診・診連携により役割分担を行い、面としての地域医療連携を目指す。 尚一層の役割・機能分担が必要。			
地域において今後担う役割	地域包括ケアシステムの中核を有床診療所が担えるように鋭意努力中である。			
今後の展望	一般病床として事業承継し、少子高齢化、人口減少時代の中で、その地域医療ニーズにあった、住民に必要とされる地域医療に貢献するつもりである。			

病院の機能・役割と今後について

病院名	清水内科			
所在地	徳島県板野郡藍住町奥野字和田71-13			
開設者	清水正樹			
許可病床数(床) (うち非稼働病床)	一般	医療療養	介護療養	合計
	13			13
	0	()	()	0
主な診療科目	1	2	3	4
	内科	リハビリテーション科		
病床機能(床) 現状 2025年	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
			13	
			13	
主な病院機能				
がん	他院と連携し、病状の経過観察、対症療法の導入、緩和医療の実施を行う。			
脳卒中	診断時に治療可能な病院への紹介を行う。また、回復期、維持期の投薬、リハビリを行う。			
心血管疾患	診断時に治療可能な病院への紹介を行う。また、回復期、維持期の投薬、リハビリを行う。			
糖尿病	診断、治療を行う。			
呼吸器疾患	診断、治療を行う。			
消化器疾患	診断、治療を行う。			
小児	診断、治療を行う。			
在宅	在宅療養支援診療所として活動する。			
自施設の現状	地域診療の担い手として急性期疾患から慢性期疾患まで外来診療を行っている。また必要に応じて入院受け入れを行う。発熱外来としての登録は行っていないが、かかりつけ医として感染症診療を行う。ワクチン接種、健診業務を行う。			
自施設の課題	他の医療機関と連携し、外来・入院診療、健診、予防に関する業務を継続する。			
地域において今後担う役割	引き続き予防健診業務を担い、地域の健康推進を行う。			
今後の展望	既に療養病床の介護医療院への転換は実施済み。現行の病院機能の維持・拡大を行う。			

病院の機能・役割と今後について

病院名	医療法人 山田眼科藍住			
所在地	徳島県板野郡藍住町奥野字矢上前53-2			
開設者	医療法人 山田眼科藍住 理事長 山田修三			
許可病床数(床) (うち非稼働病床)	一般	医療療養	介護療養	合計
	5 (5)	()	()	5 (5)
主な診療科目	1	2	3	4
病床機能(床) 現状 2025年	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
	休床中			
	廃止検討中			
主な病院機能				
眼科 前眼部疾患	診断と治療 他医療機関への紹介			
後眼部疾患	網膜剥離、黄斑変性など診断 他医療機関への紹介			
小児の斜視、弱視	診断と治療 他医療機関への紹介			
コンタクトレンズ処方	屈折異常の診断とコンタクトレンズ処方			
自施設の現状	10年以上休床の状態が続いている。			
自施設の課題	休床状態が続いており、病床の廃止を検討中である。 地区医師会等との連携をより一層強化し、外来診療にて地域の病院・診療所との役割分担を担う。			
地域において今後担う役割	医療・福祉支援のため県内の医療機関や福祉施設等の連携を図る。			
今後の展望	病床の廃止検討中			

